

に甘く眠らせ給へとて、物の音もはかりて眠せけるに、第四日の夕かた、みづから目をさまして起立、四日臥したる事は老らず、今は何時ぞといふ、此時主の婦人かたはらにありて、翁に目くばせして、七ツ半も候はんといふに、女うちゑみツ、さてもうれしや六年ぶりにて、老ばしがほどこ、ちよくねぶりて、心はれん、としたり、人々は夕けたべ給ひしや、わらはもとて喰をもとむ、翁はたく、よろこび、いざとくといそがするに、婦人ふた、び翁に目くばせし、六年ぶりにてめづらしくねぶり玉は、めでたく粥をす、め給へとて、にはかにてうじたて、す、めけるに、常にまさりて心よくはしをととりつ、給仕する下女にもいふさまなど、つねにはあらぬ事にて、人のなみく、なりければ、翁かたはらにありて、よろこぶ事かぎりなし、かくて次第に快く、寢食つねのごとくになり、人に面をあはする事を嫌ひたるも、わすれたるがごとく、またしみあさき相客の女にも、ものいひかはすやうになりて、三めぐりあまり浴して、奇病といひしもまつたく愈ければ、翁はさらなり、妹をはじめ、従者までもいさみよろこび、翁も妹も病をわすれて、めでたく故郷へ立かへりぬとものがたれり、此物語のついでに、江戸にて某の人年久しき腫物の、ふしぎにいへたるはなし、又は他の客舎にて、諸病の愈たるもの、たるなど、雨のつれづれにあまたき、たれど、さのみはともらせり、

〔七湯栞〕出湯のいさほし

夫温泉は、天地自然の理にして、陰陽交會し、水火妙合して、温泉となる故に、是に溶すれば、いつとなく人の肌體、腹臍、表裏關節に貫徹し、陽氣を宣通し、留瘀を化導し、經絡を利し、氣血をめぐらし、邪毒を排托する事、たとへば膏澤の物をうるほし、時雨の物にそ、ぐが如く、渙然として鬱をひらき、結を解き、寒を除き、濕を去る事、皆温泉の能也、別て婦人血積、瘀血、經行不順の症、其外帶下、腰冷、下部一切の病によろし、